

学びのデザインシート(授業前)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会科】

1. 対象(実施を想定する学校・子供の実態の概要)

中学校・1年生 20人(男子13人、女子7人)

本校の子ども達は、3つの小学校から入学してきており、小学校の6年間、年に3、4回、交流授業を行ってきた。入学前からお互いのことをよく理解しており、いろいろなことを発言しやすい雰囲気のある集団である。中学校に入学し3ヶ月が経ち、学習面では、小学校の内容をより詳しく学習することができることを意欲的に捉えている。

社会科の授業では、「この人、もう出てくるの?」「これは小学校で勉強したよ。」など、既習事項を思い出し、「前の授業では、○○を使っていたよね。」「この前の時代では、○○だったよ。」と時代と時代を比較して考える姿が見られる。授業では、友達に分からないことを聴いたり、教え合ったりすることができるが、校内定着度テストや単元テストの結果によると、習熟度に個人差が見られることも確かである。

2. 単元(題材)名「中国にならった国家づくり」(全6時間)

3. 単元(題材)で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開されたことを理解している。また、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。
思考力, 判断力, 表現力等	東アジアの動きや交流が政治や文化に与えた影響を考察し、事象を相互に関連付けるなどして、古代社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
学びに向かう力, 人間性等	律令国家の形成について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

4. 本時の目標

政治改革や貴族の暮らしを結びつけながら農民に課せられた負担について調べ、紹介する活動を通して、税などの負担の実際をつかみ、政治改革の影響や生活していくことの厳しさについて考えることができる。

【思考・判断・表現】

5. 授業展開【(本時)・単元(題材)】

解決したい課題や問い(単元)

クニから国へ。古代、何が起きて、どのような影響が出たのか突き止めよう!

解決したい課題や問い

(5) なぜ、農民と貴族にはこんなに違いがあったのだろう。

考えるための材料A
当時の貴族、農民の服装・食事・住居が分かる資料(写真)
<p>【想定される活動】</p> <p>〈読み取り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴族の人は、中国風の衣服を着ている。逆に、農民が着ている服は、質素で簡単そうな服。 ・貴族の食事は、たくさん品数がある。地方の特産物が食事に出されているよ。逆に、農民の食事は、品数が少ない。おかずも、今みたいな料理じゃなく、塩だけとか貧しい。 ・貴族の住居は、木造でしっかりした造りをしている。農民の住居が縄文時代からほとんど変わらない竪穴住居に住んでいる。 <p>〈生徒たちの意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴族の生活には、政治と同じで中国の影響をととても受けていることが分かった。 ・でも、どうして農民と貴族ではこんなに違いが出ているんだろう。

考えるための材料B	考えるための材料C	考えるための材料D
<p>〈調・庸〉</p> <p>地方の特産物と都への運脚 きびしい運脚(続日本紀、万葉集)</p>	<p>〈雑徭〉</p> <p>都から地方への駅路 古代の行政区分「五畿七道」 8世紀ごろの場面絵</p>	<p>〈防人〉</p> <p>防人の歌 都までかかる日数</p>
<p>【想定される活動】</p> <p>〈読み取り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人男性に課されたもの。 ・都に調・庸を運ぶまでに何日もかかる。静岡だと18日くらい。 ・都に向かう、地元に戻る時の食料品は、自分で確保しないとイケない。 ・地元に戻れず亡くなってしまう人もいる。 <p>〈生徒たちの意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴族の食事に使われていた物は、地方の人たちが頑張って届けた特産品だったんだ。 ・静岡だと鯉って書いてあるけど、生ものをどうやって運んだんだろう。 ・旅に必要な食料を自分で確保しないとイケないのは大変。 ・地元に戻れず、都で亡くなってしまう人もいるなんて可哀そう。 	<p>【想定される活動】</p> <p>〈読み取り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人男性に課されたもの。 ・都と地方を繋ぐための道が整備された。 ・駅路は、横幅12mもある。 ・道だけではなく、建物を造ったり仏像を造ったりする仕事があった。 <p>〈生徒たちの意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都と地方を結ぶ道は距離があるから大変そう。 ・道幅も広いし、どのくらい時間がかかったんだろう。 ・都には、屋敷だけじゃなく仏教の建物も多く建てられたから、たくさん人が必要だったんだろうな。 	<p>【想定される活動】</p> <p>〈読み取り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人男性の3～4人に1人に課されたもの。東日本の人が防人に選ばれている。 ・大宰府までかなりの日数が必要。 ・三年間も地元を離れて、大宰府に勤務しないとイケない。 ・武器とか食料を自分で用意しないとイケない。 <p>〈生徒たちの意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州に近いところの人を防人にすればいいのに、わざわざ遠い東日本の人を呼ぶ必要があったのかな。 ・九州まで呼んでおいて、武器や食料を自分で用意しないとイケないなんて酷い。 ・調と庸は免除と書いてあるけど、租は免除されなかったのかな。もしそうなら、誰が租の分を補ったのかな。

対話と思考 (対話を通じた協働的な問題解決のプロセス)

【全体】

- 1 今まで学習してきた中で、古代のリーダーたちが共通の願いを持って様々な改革を行ってきたことを確認する。
- 2 当時の貴族・農民の衣食住の様子を予想させ、当時の様子が分かる資料を提示する。

考えるための材料A

【問いの確認】

なぜ、農民と貴族にはこんなに違いがあったのだろう。

【学習前 生徒の予想される解答】

- ・改新の詔で「税を納める」とあったから、税が関係していそう。
- ・昔、年貢があったと聞いたことがあるから、同じようなものがあったのではないか。
- ・もし、そうだとしたら、どんな税があったのだろう。
- ・貴族の食卓に並んでいた食べ物も、農民が運んできたのかもしれない。

【資料の読み取り】

実際に、当時の農民にどのような税や負担が課せられたのか見てみましょう。

- 1 教師が租調庸、出挙、雑徭、兵役(防人)の内容を紹介。
- 2 租と出挙は、教師が詳しく説明する。

【個人活動】グループで分担し、課題に取り組む。

考えるための材料B

活動を通して、農民たちが食料を自己負担しながら何日もかけて都に特産品を運んでいたこと、冬の寒い時期に運んでいたため病気や飢え死にってしまう人がいたことを資料から読み取り、農民の生活への影響を結び付けて考える。また、苦勞して運んだ地方の特産物が貴族の食事に使われていたことに気付く。

考えるための材料C

活動を通して、朝廷が地方を管理するために道を整備するため、都や仏教建築、堤を造るため各地で土木事業が行われたことから、たくさんの農民が必要だったことと農民の生活への影響を結び付けて考える。

考えるための材料D

活動を通して、全ての成人男子ではないが東日本から防人が選ばれ、長い道のりの食料や武器などを自己負担すること、3年間任務することと当時の人が残した防人歌から農民の生活への影響を結び付けて考える。

【グループ活動】自分が調べて分かったこと、そこから考えたことを伝え合う。着眼点として、「何が農民の負担になっていたのか」に触れる。

- ▶まずは、誰を対象にしていた税・負担だったんだろう。
- ▶調・庸は、全ての成人男子に課されていたよ。
- ▶雑徭も、全ての成人男子に課されていたよ。
- ▶防人は、全員じゃないけど、成人男子の3～4人に1人が選ばれていたよ。→どれも、男性への税負担が大きいね。
- ▶それぞれの大変だと思ったポイントはどこだろう。
- ▶調・庸は、都まで何日もかけて特産物を届けるだけではなく、往復の食料も自己負担というところが大変だと思う。
- ▶雑徭は、給料も食事も十分に出ない土木事業に男性が行ってしまうから大変だと思う。
- ▶防人は、調・庸と同じで、食料が自己負担というところと武器も自分で用意しないといけないところが大変。更に、東日本から集められていたから、北九州まで行くのに何十日もかか

ている。しかも、3年間も任務に就かなきゃいけない。

- ▶食料とかを自分で用意しなければいけないというところが三つとも共通しているね。
- ▶調・庸を冬に届けに行くんだけど、寒さで病気にかかったり飢えで亡くなったりする人もいたから。春から秋は稲作、冬は調・庸を届けに行くって厳しいと思うな。
- ▶雑徭は、働き盛りの成人男性が駆り出されるから、残された家族も大変だったと思う。
- ▶防人の歌に、「母のいない子を残して」という内容の歌も残されていたよ。男性だけじゃなくて、一緒に生活していた家族にも相当な負担がかかっていたらうね。
- ▶こんなに農民の生活が辛いなんて…逃げ出したくなっちゃうよね。
- ▶リーダーたちが改革をして、都や地方の整備、海外対策をしたりする必要があるのは分かるけれど、農民にかかる負担がとても大きすぎるよね。

【まとめ】

それぞれの班で出た意見を全体で共有する。

まとめとして、NHKforschoolの「農民の暮らし」を視聴する。

学習の成果 (予想される子供のあらわれ)

飛鳥から奈良時代の古代リーダーたちは、天皇中心の国づくり、中国に負けない国づくりを目指して、中国を真似しながら様々な改革を行ってきた。そのおかげで、国として認められるようになったし、朝廷の力が地方にも行き届くようになった。

その半面、改革によって人々の生活を大きく変えてしまった。貴族は、そんなに苦勞しなくても豊かな食事と綺麗な衣服を着て豪華な暮らしができています。しかし、農民は、国の改革や貴族の生活を支えるために税負担が増すばかりでとても苦しい生活になっている。